

2 港湾計画(案)の基本方針

【現港湾計画】

平成14年3月改訂（目標年次：平成20年代前半）

千葉港を取り巻く状況・要請の変化

- コンテナ船・自動車専用船の大型化に伴う既存岸壁の水深・延長不足
- 現状の貨物量に対するコンテナヤード・自動車ヤードの不足
- 非効率な岸壁・ヤードの配置による輸送効率の低下
- 港内の放置艇収容施設の不足
- クルーズ需要の増大、賑わい空間の創出

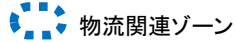
など

【港湾計画改訂】

千葉港への要請や内外の諸情勢の変化に対応
目標年次：2030年代前半

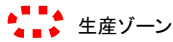
2 港湾計画（案）の基本方針

千葉港長期構想



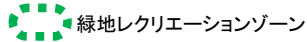
物流関連ゾーン

背後圏の産業・経済・生活を支える物流拠点として港湾施設及び物流施設を提供するゾーン



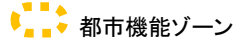
生産ゾーン

臨海部に立地する企業の産業活動に提供されるゾーン



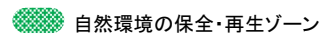
緑地レクリエーションゾーン

快適な親水緑地等の港湾環境を創造し、人々が海に親しむことのできるゾーン



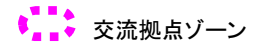
都市機能ゾーン

集客施設や商業施設等が立地し、人々の暮らしの充実に貢献するゾーン



自然環境の保全・再生ゾーン

三番瀬等の貴重な自然環境の保全・再生をし、人と自然が共生する良好な港湾環境の形成を図るゾーン



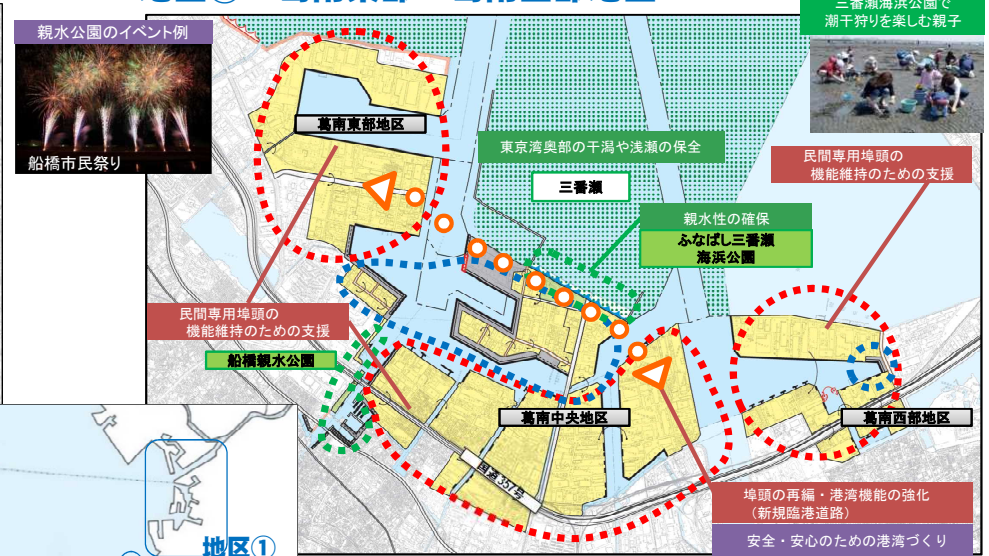
交流拠点ゾーン

交流拠点施設など多くの人々が訪れる賑わいの創出をはかるゾーン

地区④ 南袖ヶ浦～千葉南部地区



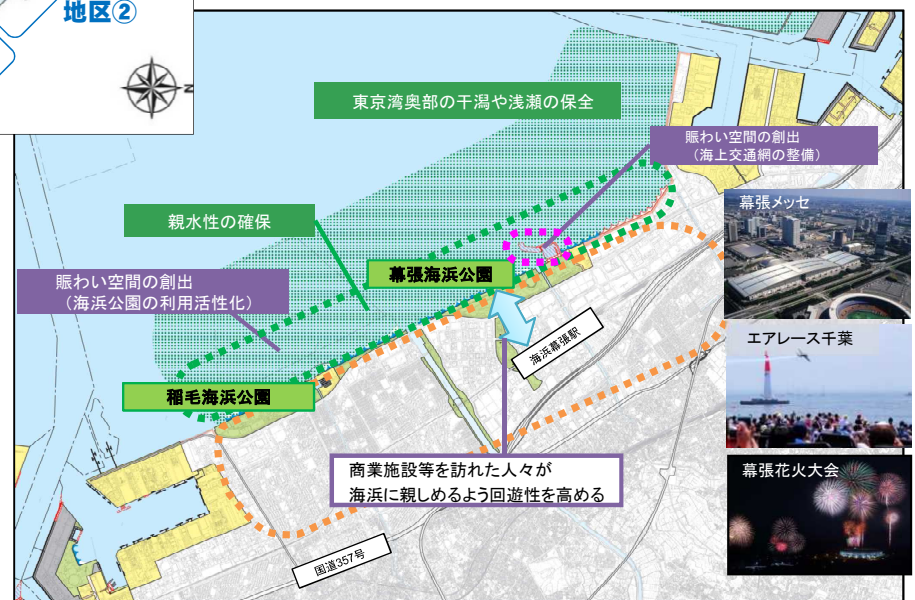
地区① 葛南東部～葛南西部地区



地区③ 千葉中央地区



地区② 千葉北部地区



2 港湾計画（案）の基本方針

目標年次と港湾計画の方針

目標年次

2030年代前半を目標年次として、

「グローバル化、地域間競争の時代の県内企業の発展を支える千葉港」

「県民の生活と安心を支え、県民と共にある千葉港」

「環境を守り、人々が海を感じふれあえる千葉港」

を将来像に掲げ以下のように港湾計画の方針を定め、港湾計画を改訂する。

港湾計画の方針

物流・産業

- ①大型化するコンテナ船、自動車専用船やRORO船への対応とコンテナ・自動車のヤード不足を解消するため、岸壁の機能強化及び用地造成による埠頭再編を行い、物流機能の向上を図る。
- ②東京湾における鉄鋼・鋼材等、一般貨物の物流拠点機能向上を目指す。

生活と安心

- ①大規模地震災害発生時の、緊急物資輸送及び住民等の避難地を確保し、地域の経済活動を支える上で必要な物流機能の維持を図るために耐震強化岸壁を配置する。
- ②東京湾内の各港との海上交通ネットワークを構築し、背後の地域資源を活用しながら、賑わい空間の創出を図る。
- ③小型船だまりの集約・再配置を行い、水域利用の適正化を図る。

環境・ふれあい

- ①港湾緑地の適切な配置と整備などにより県民が海に簡単にかつ安全にアクセスできる環境を整える。

目標年次(2030年代前半)における
取扱貨物量、船舶乗降旅客数等

取扱貨物量	外貿 (うちコンテナ)	9,390万トン (70万トン) (6万TEU)
	内貿 (うちコンテナ)	5,450万トン (20万トン) (3万TEU)
	合計	14,840万トン
船舶乗降旅客数等		50万人